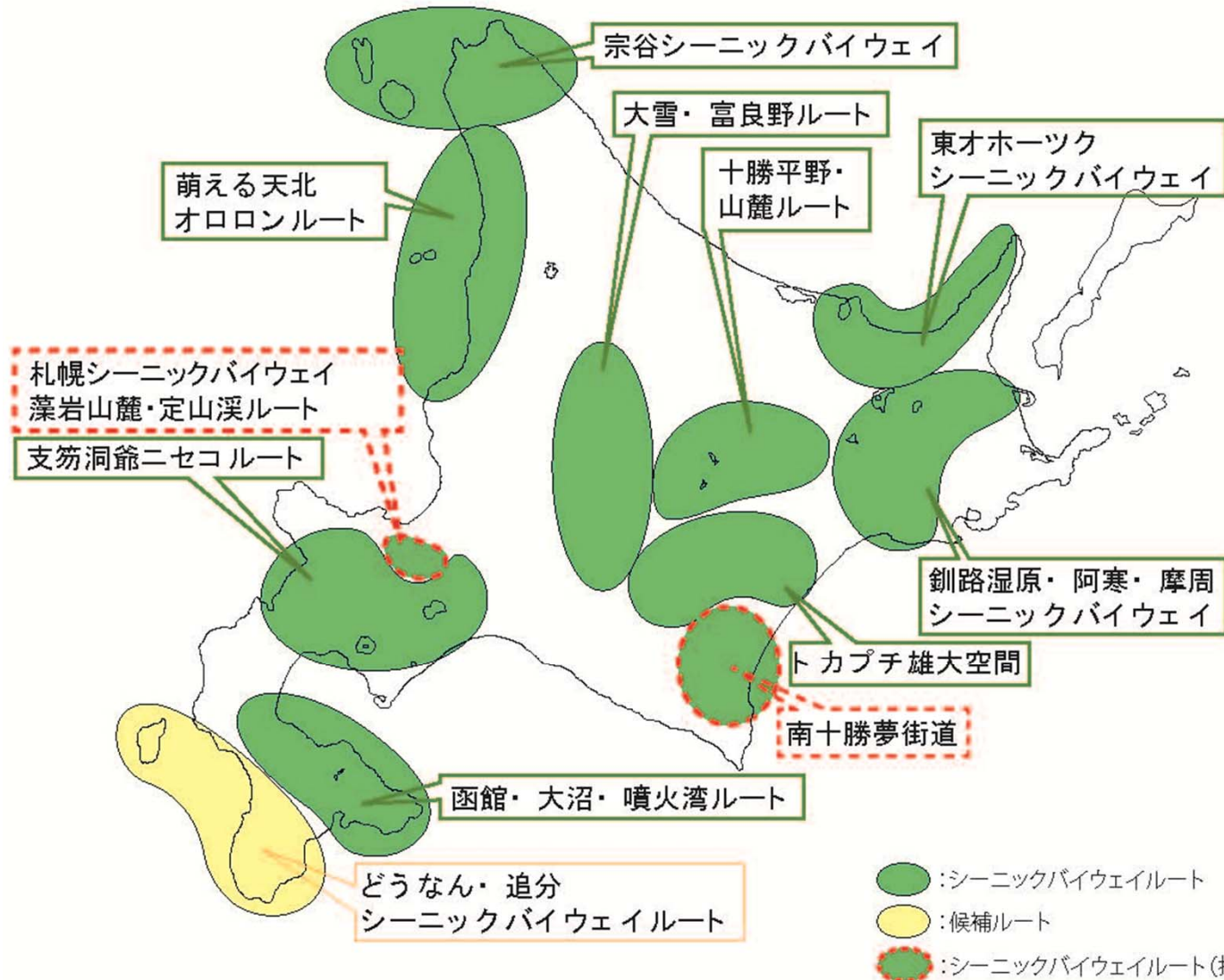


## シーニックバイウエイルート 提案状況について

## ○シーニックバイウエイルート（2ルート）

ルート名称	代表者名	代表者の所属	構成 団体数	関係市 町村数
南十勝夢街道	加藤 修治 かとう しゅうじ	幕別町商工会忠類支所会長	38	5
札幌シーニックバイウエイ 藻岩山麓・定山溪ルート	福士 昭夫 ふくし あきお	札幌市石山地区 町内会連合会会長	36	1

# シーニックバイウェイ北海道の提案ルート



1次指定	H17・5	3ルート	●支笏洞爺ニセコルート ●大雪・富良野ルート ●東オホーツクシーニックバイウェイ
2次指定	H18・4	1ルート	●宗谷シーニックバイウェイ
3次指定	H18・11	2ルート	●函館・大沼・噴火湾ルート ●釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ
4次指定	H20・5	1ルート	●萌える天北オロロンルート
5次指定	H21・5	1ルート	●十勝平野・山麓ルート
6次指定	H22・5	1ルート	●トカプチ雄大空間

## 【候補ルート登録】

- ◆第1次登録(平成17年5月9日)
  - 函館・大沼・噴火湾ルート
  - 釧路湿原・阿寒・摩周ルート
- ◆第2次登録(平成18年4月18日)
  - 南十勝夢街道
  - 十勝平野・山麓ルート
  - 萌える天北オロロンルート
- ◆第3次登録(平成18年11月13日)
  - なし
- ◆第4次登録(平成20年5月12日)
  - どうなん・追分シーニックバイウェイルート
  - トカプチ雄大空間
- ◆第5次登録(平成21年5月13日)
  - 札幌南シーニックバイウェイ

● :シーニックバイウェイルート  
 ● :候補ルート  
 ● :シーニックバイウェイルート(提案中)

平成23年6月8日  
ルート審査委員会

## ルート審査委員会の審査結果

## (1) シーニックバイウエールート

## ① 南十勝夢街道

審査の視点 審査委員	視点1					視点2 活動団体の 主導的な推進	視点3 地域住民と行政が一体となった地域の魅力向上への取組	視点4 景観の質の向上 ブランド化 地域の活性化	ルート指定の 推薦の可否
	国内において優位性が認められる主な地域資源								
	景観 資源	景観以外の資源							
		自然 資源	文化 資源	歴史 資源	レクリ エーション 資源				
A	○	○	-	-	-	多少認められる	多少認められる	若干認められる	可
B	○	○	○	○	○	認められる	認められる	認められる	可
C	○	○	○	-	○	認められる	認められる	認められる	可
D	○	○	-	-	○	認められる	認められる	認められる	可
E	○	○	-	-	-	認められる	認められる	認められる	可

② 札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート

審査の視点 審査委員	視点 1					視点 2	視点 3	視点 4	ルート指定の 推薦の可否
	国内において優位性が認められる主な地域資源					活動団体の 主導的な推進	地域住民と行政が一体となった地域の魅力向上への取組	景観の質の向上 ブランド化 地域の活性化	
	景観 資源	景観以外の資源							
自然 資源		文化 資源	歴史 資源	レクリ エーション 資源					
A	○	○	○	-	-	認められる	認められる	-	可
B	○	○	○	○	○	認められる	認められる	認められる	可
C	○	○	○	-	○	認められる	認められる	認められる	可
D	○	-	-	○	○	認められる	認められる	認められる	可
E	○	-	○	-	○	認められる	認められる	認められる	可

平成 23 年 7 月 29 日  
シーニックバイウェイ北海道推進協議会

## シーニックバイウェイルート指定等について（案）

○シーニックバイウェイ北海道実施要綱第 18 条第一項及び第二項の規定に基づき、次のとおりシーニックバイウェイルート指定を行う。

### ■指定ルート①

ルート名：南十勝夢街道

関係市町村：中札内村、更別村、幕別町、大樹町、広尾町

提案者：「南十勝夢街道」ルート運営代表者会議

### ■指定ルート②

ルート名：札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート

関係市町村：札幌市

提案者：「札幌南シーニックバイウェイ」ルート運営代表者会議

なお、上記指定・登録を行うにあたって、別紙の通り意見を付記する。

## シーニックバイウェイ北海道 推進協議会 意見 (案)

## ■シーニックバイウェイルート

## 「南十勝夢街道」に対する意見

## ○ 優れた景観資源の有無及び地域資源の優位性

有名観光地はないが、日本離れした雄大な空間のなかに、水準の高い一級品の景観資源・地域資源が多数存在する。道路からの美しい唐松林の眺め、日高山脈、豊富な水とそれを育む森と川、水産資源を有する大海原、そこに暮らす人間の営みなど、内外の訪問客に癒しを与える奥深く貴重な景観資源である。

山、牧場、畑、海からの恵みといった多様性に富み水準の高い食や、景観と相まり、一歩踏み込んでいった者にだけ味わうことができる奥深い自然・文化景観、住民の営みも、優位性のある資源である。

今後とも、本ルートが有している、これらの優れた地域資源を意識しながら、「美しい景観づくり」、「活力ある地域づくり」、「魅力ある観光空間づくり」へ、より一層活用されることに期待している。

## ○ 景観の質の向上、ルートのブランド化、地域の活性化について

水準の高い景観資源の発掘や活用、美化運動、四季の見所という楽しみ方の提案などといった取組を評価したい。景観には、光景と風景、情景があるが、特に本ルートには、風景と情景について期待している。

カレンダーやマップの作成、坂本画伯の活用など、ルートのブランド化に向けた多数の工夫がなされ、かつ成果を上げているが、今後は、他のルートと差別化したブランドの形成や、実質的で生活に根ざしたブランド化、東アジアからも評価されるストーリーづくりなどがさらに期待される。外部からのアドバイスの取り込みや、戦略的な情報発信、マーケティング手法の導入なども行いながら、着実に確実に活動を継続していただきたい。

地域の活性化という観点からは、人が元気になる、輪が広がるという点において着実に成果をあげている。交流の輪が広がる、経済効果が出ることも時間の問題であろうかと思うので、具体のシナリオやプログラム、活動が地域の活性化に繋がる仕組みをつくることを意識されることが望ましい。

また、日高山脈に象徴されるように、奥深いこと、総じてレベルが高いことなどの特徴が、反面、アクセスしにくいことや、真に楽しむためには、それなりの準備や訓練が必要であることなど、市場の拡大という点では弱みともなっているという側面もあり、これを魅力に転化させること、魅力に感じる層への働きかけの強化することなどが求められる。自然の楽しみ方、食の楽しみ方、農の楽しみ方、宇宙の楽しみ方を現地で学ぶということも楽しさと達成感を得るためには必要であり、これが長期滞在や「遊ぶ学校」などといったビジネスに繋がることに期待したい。

「夢の共有」というコンセプトのもとに、商工会や観光協会を中心としながら活動の輪が広がり、運営活動計画の充実と実践が進化・深化しているとともに、5町村との連携体制も充実している。今後とも、外部の意見や、情熱のある人の意見等も取り入れながら、より一層、活動の質の向上に注力されることに期待したい。

## ■シーニックバイウェイルート

### 「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート」に対する意見

#### ○ 優れた景観資源の有無及び地域資源の優位性について

札幌という大都市景観に加え、郊外部の農村景観、滝野すずらん丘陵公園、札幌市民の心のオアシスである藻岩山、清流・豊平川に沿った景観、奥座敷・定山溪温泉の佇まい、中山峠や支笏湖へ至る山間の道など、大都市の直近にこれだけ豊かで、多様性に優れた景観資源を持っていることは、「世界に通用する」という自信をもってよいほどである。

定山溪温泉、全国ブランドとなっているオリンピック記念公園と施設、及びそれを利用して展開されている各種のイベントやレクリエーション活動などにも優れている。さらには、エドウィンダンや札幌軟石の存在など歴史性や音楽、彫刻などの芸術を気軽に楽しめる環境と雰囲気にも恵まれていることも優位性の一つである。まさに、世界都市・札幌の具体的な姿を体験し、五感で感じる事が出来る資源を持っている。

また、新千歳空港から近く、大都市札幌の一部であるということ、支笏洞爺ニセコルートと近接しているという地理的な資源もある。

今後とも、本ルートが有している、これらの優れた地域資源を意識しながら、「美しい景観づくり」、「活力ある地域づくり」、「魅力ある観光空間づくり」へ、より一層活用されることに期待している。

#### ○ 景観の質の向上、ルートのブランド化、地域の活性化について

自然資源を活用した周遊プランなどが良く工夫されているとともに、地域資源の発掘や景観診断、住民の手からなるフラワーロードなど、活動団体の取組自身や札幌市との連携が、景観の資源の向上に役立っている。

ただし、本ルートの光景、風景、情景といった景観が、世界に通じ、「世界都市さっぽろ」、「環境首都・札幌」、「創造都市さっぽろ」を体感できる可能性を有していることから、さらにグローバルな視点からの資源の活用を期待したい。

さらには、ツーリズムの質の向上が地域経済の活性化に直結することなどを意識しながら、活動を通じて地域にメリットが出てくるような視点や工夫も、継続的に活動を行うためには必要である。たとえば、札幌に来て、大体は札幌中心部で帰ってしまう道外の方を、わざわざこのルートまで引っ張るためには、テーマをもたせた情報づくりやその発信を積極的に行っていくべきである。

そのため、今後は、推進協議会や行政連絡会議との協働のもと、大都市札幌全体を視野に入れながら、札幌シーニックバイウェイの先達としての先進的な活動と連携の強化に注力いただきたい。また、大学や姉妹都市など世界に通じる地域・組織との連携、それらの複合による主導的な活動を広げていくことについても期待したい。